

# 宇治拾遺物語

## 児のそら寝 口語訳

今は昔、比叡の山に児ありけり。

今となっては昔のことだが、比叡山の延暦寺に幼い子がいた。

僧たち、宵のつれづれに、「いざ、かいもちひせむ。」と言ひけるを、この児、心寄せに聞きけり。

(寺の)僧たちが宵の手持ち無沙汰なときに、「さあ、ぼたもちを作ろう。」と言ったのをこの子どもは期待して聞いていた。

さりとして、し出いださむを待ちて寝ざらむも、わろかりなむと思ひて、片方に寄りて、寝たる由よしにて、

そうであるからといって、(ぼたもちを)作り上げるのを待つて寝ないのも良くないだろうと思って

(部屋の)片隅に寄りて、寝ているふりをして

出で来るを待ちけるに、すでにし出だしたるさまにて、ひしめき合ひたり。

(ぼたもちが)できあがるのを待っていたところ、もうすでにできあがっている様子で、(僧たちは)騒ぎ合っている。

この児、定めておどろかさむずらむと待ちみたるに、僧の、「もの申し候さぶらはむ。おどろかせ給たまへ。」と言ふを、

この子どもは、きっと(だれかが自分を)起こしてくれるだろうと待っていると、僧が「もしもし。目をお覚ましくください。」と

言うのを、

うれしとは思へども、ただ一度にいらへむも、待ちけるかともぞ思ふとて、いま一声呼ばれていらへむと、

嬉しいとは思うが、ただ一度で返事をするのも、(呼ばれるのを)待っていたと(僧たちが)思うかもしれないと(考えて)

もう一度呼ばれてから返事をしようと(思って)、

念じて寝たるほどに、「や、な起こし奉たてまつりそ。をさなき人は、寝入り給ひにけり。」と言ふ声のしければ、

我慢して寝ているうちに、「これ、お起こし申し上げるな。幼い人は寝入ってしまったのだ。」と言う声がしたので

あな、わびしと思ひて、いま一度起こせかすと、思ひ寝に聞けば、ひしひしと、ただ食ひに食ふ音のしければ、

ああ、情けないと思って、もう一度起こしてくれよと、思いながら横になって聞くと、むしゃむしゃと、

ただひたすら(僧たちがぼたもちを)食べる音がしたので、

ずちなくて、無期むごののちに、「えい。」といらへたりければ、僧たち笑ふこと限りなし。

(子どもは)どうしようもなく、(呼ばれてから)ずっと後になって、「はい。」と返事をしたので

(これを聞いて)僧たちは笑うことがこの上ない。